

【アンケート項目】

A. 身分等について（該当するものに○を付け、数字または名称を記入してください）.

- 1) 学年：修士（ ）年／博士（ ）年
- 2) 未婚／離婚／既婚（またはパートナーと同居）
- 3) 子供（ ）人
- 4) 一人暮らし／家族と同居
- 5) 所属専攻： 物理／天文／地球惑星科学／化学／生物科学／生物化学
- 6) 日常的に研究に使用している建物（ ）館
- 7) 経済状況（収入）（答えは複数可）：
学振／奨学金／RA／アルバイト／親のサポート／パートナーのサポート／貯金／その他（ ）
- 8) 高校時代の学校での男性比率（%）： $\leq 25 / 26-50 / 51-75 / 76-99 / 100$
- 9) 出身大学の所属学科または学部での男性比率（%）：
 $\leq 25 / 26-50 / 51-75 / 76-99 / 100$

B. 女子大学院生の比率について

平成 15 年 5 月 1 日現在の理学系研究科修士・博士課程の女子大学院生の割合は、平均で 19.2%（各専攻については、物理 5.0%、天文 12.2%、化学 20.3%、地球惑星科学 20.9%、生物化学 28.2%、生物科学 39.4%）です。参考までに、アメリカでは 1999 年の統計で理系の大学院女子学生は 40-60%（物理は 29%、地球科学 41%、生物 52%など）。イギリスの 1997 年の統計では、物理 18%、化学 34%、生物 52%です。

- 10) 現在あなたが所属している研究室（または大講座）の女子学生（大学院生）の比率はどのくらいですか？（ ）人／（ ）人中
- 11) あなたの所属する専攻における現在の女子大学院生の比率は低過ぎると思いますか？ YES/ NO
- 12) 11)で YES とお答えの場合、比率はどのくらいまで高めるべきだと思いますか？（ ）%
- 13) 大学院学生の女性比率が低い場合、院生の教育・研究指導に影響を及ぼすと思いますか？ YES/ NO
- 14) 13)で Yes とお答えの場合、それは女子大学院生にとって positive な影響ですか？ YES/ NO
- 15) 13)で Yes とお答えの場合、それは男子大学院生にとって positive な影響ですか？

YES/ NO

16) 教育・研究に関して、あなた自身が男性であるために優遇されていると感じたことはありますか？ YES/ NO

YES とお答えの場合、それはどのような時ですか？

17) 教育・研究に関して、あなた自身が男性であるために冷遇されていると感じたことはありますか？ YES/ NO

YES とお答えの場合、それはどのような時ですか？

18) 上記 16, 17) で YES とお答えの場合、それらの原因の一つは女子大学院生が少ないためであると感じることがありますか？ YES/ NO

YES とお答えの場合、それはどのような時ですか？

19) その他、研究・教育に関連して上記以外の男女差にかかわる問題があればお書き下さい。

C. 女性教官比率について伺います。

理学系研究科教授会メンバーの現在の女性教官比率は、3%（平成 15 年 5 月 1 日現在 159 人中 5 人）です。5 名の所属は、物理（助教授 1）、化学（教授 1）、地球惑星（教授 1）、生物科学（助教授 2）。自然科学系分野の女性教授の比率は、世界 14 ヶ国の統計で、平均 30%です（トップは 65%のイスラエル、続いて比率の高い順にオーストラリア・メキシコ・チリ・ブラジル・アメリカ・香港・イギリス・スウェーデン・ロシア・オランダ・ドイツ・韓国で、最下位の日本は 5%）。また科学全体を対象とした別の統計によれば、イタリア 48%、スペイン 45%、フランス 39.3%、イギリス 38.9%、アメリカ 34%、ドイツ 27%、韓国 23%、日本 17%です。

20) 世界各国と比べて女性教官比率がこれほど低いという現状を知っていましたか？

YES/ NO

21) 女性教官が少ないことは、教育上問題があると思いますか？

YES/ NO

YES とお答えの場合、それはどのような問題ですか？

22) 女性教官が少ないことは、研究を発展させる上で問題があると思いますか？

YES/ NO

YES とお答えの場合、それはどのような問題ですか？

23) 女性教官比率を高めるべきだと思いますか？

YES/ NO

24) 23)で YES とお答えの場合、比率をどのくらいまで高めるべきだと思いますか？

() %

D.学内の施設・環境について

25) 研究・教育の施設（教室、研究室）や建物設備（トイレ、更衣室、エレベーターなど）について、男女が共に学ぶ場として困る点や改善すべき点がありますか？

YES/ NO

YES とお答えの場合、それはどのような問題ですか？

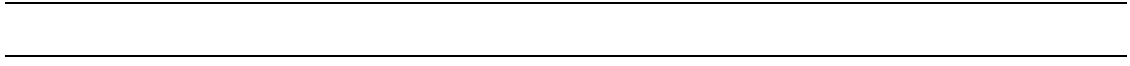
26) 大学院の生活環境における施設や設備以外のソフト面（夜間安全監視・管理のためのサービス体制など）について、男女が共に学ぶ場として困る点や改善すべき点がありますか？

YES/ NO

YES とお答えの場合、それはどのような問題ですか？

27) その他、学内の施設・環境に関連して上記以外の問題があればお書き下さ

い.



E. 女性の社会参画について

これまで社会の活動への女性の参画の促進を妨げてきた要因はさまざまですが、中でも出産・育児，パートナーとの共同生活，女性が高等教育を受け仕事を持つことに対する社会の偏見や慣習などが大きく影響しています。

28) 一般的に見て，女性が仕事を持つことに賛成ですか？（複数回答可）

a どのような状況でも賛成／b 結婚前ならフルタイムの職業でも賛成／c 結婚後はパートなら賛成／d 子供がいなければ賛成／e 結婚後は反対／f その他
()

29) あなたの配偶者が仕事を持つことに賛成ですか？

a どのような状況でも賛成／b フルタイムの職業でも家事・育児がこなせば賛成／c パートなら賛成／d 子供がいなければ賛成／e 反対／f その他
()

30) 家事の分担についてどのようにお考えですか？（未婚の方は一般的にどうあるべきとお考えですか？）

a 男女ができるだけ平等に協力すべき／b 女性が主に行うべき／c 男性が主に行うべき／d その他 ()

31) 育児の分担についてどのようにお考えですか？（未婚の方は一般的にどうあるべきとお考えですか？）

a 男女ができるだけ平等に協力すべき／b 女性が主に行うべき／c 男性が主に行うべき／d その他 ()

32) 育児・介護休業法に定められている育児休業制度では，1歳（国家公務員の場合は国家公務員法により3歳）に満たない子を養育する男女労働者は育児休業することができます。

あなたは将来，この制度を活用して育児を分担したいと思いますか？あるいは男性はこの制度を活用すべきだと思いますか？

YES/NO

NO とお答えの場合，その理由はなんですか？

33) ご両親についてうかがいます。お母さんは家事・育児以外の仕事の経験がありますか？

YES/NO

34) お母さんは，育児期間中に仕事をしていましたか？

YES/NO

35) お父さんは，家事をしていましたか？

YES/NO

36) お父さんは，育児をしていましたか？

YES/NO

F. 進路等について

37) 進路や就職を考える上で、(研究の内容や仕事の内容以外で) 最も尊重したいことはなんですか? (複数回答可)

配偶者・パートナー／育児／子供の教育／両親の介護／仕事の内容／地理的環境／職場の環境／住環境／給料／その他 ()

38) 就職の時、性別の違いが影響すると思いますか? YES/ NO

YES とお答えの場合、それはどのようなことだと思いますか?

39) 研究職や専門職では、性別の違いが問題になるとお考えですか? YES/ NO

YES とお答えの場合、それはどのような問題だと思いますか?

G. 男女共同参画について

40) 男女共同参画の観点から見た時、自然科学系の研究・教育機関に改善すべき問題があると思いますか? YES/ NO

41) 40)で YES とお答えの場合、それは以下のどのような要因によると思いますか? 関係すると思われるもの全てに○を付けてください。

歴史／社会通念／大学制度／指導教官／家庭(両親)／結婚／育児／男性の考え方／女性の考え方／その他 ()

42) 41)で○を付けた要因について、具体的にどのような問題だと思いますか?

45) 男女共同参画の推進にあたって、女性を優遇する制度等を(内容によっては期間を限定して) 導入するという考え方がありますが、あなたは賛成で

すか？

YES/NO

- 46) 上記 45) で YES とお答えの場合、次の中で賛成できるもの全てに○を付けてください。（*は、女性比率が目標値に達するまでの期間に限るもの）
- ア. 女子学生に限定した奨学金（*）
 - イ. 常勤職を持たない女性研究者のためのフェローシップ
 - ウ. 競争的資金等の応募資格（たとえば、学術振興会の特別研究員）における年齢制限に育児期間を配慮する
 - エ. 出産・育児等で一時的に離職した女性を客員研究員等として登用する
 - オ. 教官等の採用時の年齢制限や業績評価に関して育児期間等を考慮する
 - カ. 教官等の採用にあたっては女性の比率を一定以上にする（*）
 - キ. 教官・研究員等で女性に限定したポストを設ける（*）
 - ク. その他（ ）

H. 理学系研究科の取り組みについて

- 47) 理学系研究科では、これまで男女共同参画に関するパネルディスカッションや女子大学院生と女性教官と懇談会を主催してきました。このような教官と学生との意見交換や交流の場（懇談会やネットワークなど）は、上記の B-G の問題の解決に役立つと思いますか？ YES/ NO

- 48) 今年度中に男子大学院生を含めた学生と教官による第 2 回目の意見交換会を計画しています。もしそのような場が提供されれば、参加したいと思いますか？ YES/ NO

YES の場合、意見交換や交流方法のアイデアがあればお書き下さい。

- 49) 男女共同参画に関連して述べたいことがあれば自由にお書き下さい。

御協力ありがとうございました。